

200年以上も続いてきた里山を 住民協働で保全活動に取り組む

—景観保全機能—

かしはら 檜原地区



秋の棚田

「檜原の棚田」は、文化10年（1813年）に作成された「檜原村分間絵図」に水田や家、道の位置が現在と同様に描かれており、200年以上もの間ほとんど変わることなく維持されてきた。しかし、高齢化や後継者不足が進み、耕作放棄地の増加によって棚田景観の維持や檜原地区に伝わる歴史・文化・伝統の継承が危ぶまれている。そのため、住民協働による景観保全活動に取り組んでいる。



かみかちちょう
徳島県上勝町

〔景観の保全、伝統文化の継承〕

檜原地区の民家の大半は、檜原地区固有の農家建築の構造、意匠を持ち、地域の伝統的な生活の様式を伝える木造民家となっており、こうした民家や棚田などが、良好な「里山景観」をつくりだしている。この歴史的にも価値のある「里山景観」を守るため、地域住民を対象とした「景観形成ガイドライン」を作成し、意向調査や先進地視察を行い、耕作放棄地の活用推進に努めている。また、かつて谷沿いに多く並んでいた水車小屋や「檜原村分間絵図」に描かれている里道が地元住民やワーキングホリデイにより復元されている。

「檜原の棚田」は平成22年2月に文化庁の重要文化的景観に選定されている。

〔洪水防止、土砂崩壊防止、土壌侵食防止、河川流況安定、地下水のかん養〕

棚田オーナー制度や上勝町集落再生事業を活用し、棚田の保全や継続して水稻栽培を行うことで、これらの機能が発揮されている。



夏の棚田



棚田オーナー制度（草刈り）



冬の棚田